

(5月29日 定時社員総会)

挨拶

挨拶

会長
田中稔一



皆様、こんにちは。この度、日本知的財産協会の会長を務めさせて頂くことになりました田中でございます。よろしくお願いいたします。

先ほどは渡部先生から知的財産に関する貴重なご意見、特に企業におけるオープン&クローズ戦略などの企業戦略について、貴重なご意見を頂きまして、大変ありがとうございました。

当協会は、間塚前会長のもと、昨年的一般社団法人化、職務発明制度、営業秘密保護制度の見直しの実現推進など、大変大きな功績を上げられました。世界最大の知的財産ユーザー団体として益々その存在感を強めております。大変な重責ではありますが、会員各社、理事、事務局の皆様のご協力を得て、当協会の更なる発展に向けて尽力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

さて世界の政治では、最近、新たな冷戦と言われる“中・露対欧・米”の対立が顕在化してきております。また環境問題に於ける先進国と新興国の対立が、これまた顕著化してきております。更には悲惨なテロが世界中で頻発するなど、世界の政治は益々混迷の度を深めております。また経済面でも、ギリシャ問題が正念場となったEUの行方、今まで世界を力強く牽引してきた中国の成長鈍化に象徴されるBRICsの沈滞、シェールガスさらには再生可能エネルギー産業の行方、水などの資源獲得競争の激化など、非常に混沌とした混迷の度を深めている、ということが言えると思います。

日本におきましては、ご存じのとおり、アベノミクスの第一の矢、第二の矢の成功により、円安・株高が実現し、今までの“六重苦”からは何とか解き放たれ明るい兆しが見えてまいりました。しかしながら、肝心の第三の矢である“民間投資を喚起する成長戦略”は、正に正念場の只中にあります。更に少子高齢化対策、エネルギーの抜本的対策、こういった重要課題が山積しております。

こういった流れの中で、世界的には、人口爆発、高齢化、食糧危機、地球温暖化、環境汚染、エネルギー不足など、人類の大きな課題が待ったなしとなっている一方で、これに対応したソリューション・ビジネスとして新たなビジネスが次々と勃興している、というのが現状ではないかと思えます。つまり、環境、エネルギー、食糧、水、健康、医療、運輸にかかる新たなビジネス、そしてこれら全てを網羅するITならびにIoT（モノのインターネット）産業の勃興です。これらは、世界全体、人類全体のグローバルな課題でありますけれども、私達にとっては大きなビジネス・チャンスでもあります。私達は、これら人類の課題に果敢に挑戦し、イノベーションを生み出し、事業化を実現して、それぞれの国・企業・人・文化のダイバーシティを尊重しながらも、知的財産の最大の活用と普及を図ることが益々重要になってきた、と考えております。特に、このイノベーションの最大化、効率化のために、適正な“協調と競争”を実現する国際的ルールをつくり、各企業の収益の最大化と躍進を後

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

押しし、ひいては社会に貢献する、ということこそが当協会の最大の使命だと思っております。

このために当協会は、各国との経済連携、知財シンポジウム、WIPOグリーンなど8つのプロジェクトや18の専門委員会の活動をさらに強力に進めてまいります。国の「知的財産政策に関する基本方針」に則って鋭意推進されております、TPPにおける知的財産の交渉、あるいは欧州との経済連携の交渉、RCEPでの交渉、また新興国に対しての環境技術の移転促進、職務発明制度の確立、更には、ビッグデータの帰属とそのアクセス権・使用权といった新しい課題に対しても積極的な研究と提言を行い、また三極・五極会議あるいはWIPOとの連携を強めることによって、当協会の活動をさらに強化してまいりたいと思っております。

先ほども話がありましたけれども、当協会はそのほかに、他に例を見ない充実した研修制度を積極的に展開しております。毎年1万5,000名弱の研修生を受け入れることによりまして会員各社の皆さんの知財戦略に大いに貢献してきていると思っておりますが、この研修もさらに強めてまいりたいと思っております。

冒頭申し上げましたように、世界は政治・経済ともに大変混乱しており混沌としておりますが、知的財産の果たす役割は飛躍的に重要になってきていると思っております。“Creating IP Vision for the World”を念頭に、会員各社のさらなる躍進と社会への貢献のため、皆さんとともに当協会の発展に力を尽くしたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

